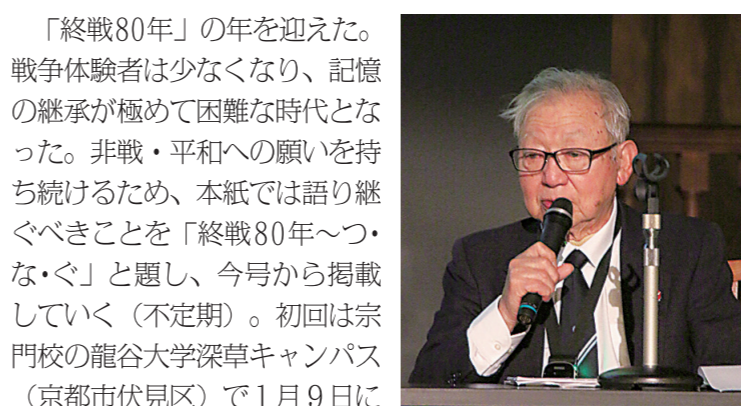


トップニュース



ノーベル平和賞・日本被団協事務局長 木戸季市さんが龍谷大学生に語る

「終戦80年」の年を迎えた。戦争体験者は少なくなり、記憶の継承が極めて困難な時代となった。非戦・平和への願いをもち続けるため、本紙では語り継ぐべきことを「終戦80年〜つなぐ」と題し、今号から掲載していく(不定期)。初回は宗門校の龍谷大学深草キャンパス(京都市伏見区)で1月9日に行われた、ノーベル平和賞を受賞した日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)の事務局長・木戸季市さん(85、宗門校・岐阜聖徳学園大学短期大学部名誉教授)の講演にスポットを当てた。木戸さんは若い世代に何を伝えたいのか。その様子をお届けする。



「終戦80年」の年を迎えた。戦争体験者は少なくなり、記憶の継承が極めて困難な時代となった。非戦・平和への願いをもち続けるため、本紙では語り継ぐべきことを「終戦80年〜つなぐ」と題し、今号から掲載していく(不定期)。初回は宗門校の龍谷大学深草キャンパス(京都市伏見区)で1月9日に行われた、ノーベル平和賞を受賞した日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)の事務局長・木戸季市さん(85、宗門校・岐阜聖徳学園大学短期大学部名誉教授)の講演にスポットを当てた。木戸さんは若い世代に何を伝えたいのか。その様子をお届けする。

会場は学生など3500人を収容する大ホールに、核兵器の危険性を高めるという現状を危惧し、ノーベル平和賞を授与された木戸さんは「核兵器をなくして人類と共存できるように」と語り、若者に何を伝えたいのかを語った。



「核兵器は人類と共存できない」

兵器のない世界の表現に被爆者が尽力していること。もう一つは、核兵器を使うと人類は滅ぶ、人類にとって核兵器とは何かということ。木戸さんは「核兵器をなくして人類と共存できるように」と語り、若者に何を伝えたいのかを語った。

「絶対悪の兵器」人間として生きることが死ぬことも許さないと。原爆。あの日から生きていく。被爆者として生きる。精神的にも肉体的にも。本人だけでなく、3世にまで影響を与える。原爆。核兵器は人間と共存できない絶対悪の兵器である。

「自分の問題、として話し合おう」木戸さんは「核兵器が人類を守るために余生を捧げなくてはならない。私が生きているのは、核兵器をなくして人類を守ることに強く語った。」

学生への問い 質疑応答の時間、教員を指す学生が「これからの学校教育で何が必要か」と質問した。

本願寺新報 hongwanji journal

3月1日(土曜日)

毎月1日・10日・20日発行

発行所 本願寺新報社 京都市下京区堀川通花屋町下ル 浄土真宗本願寺派(西本願寺) 千600-8501 本願寺出版社内 電話 075(371)4171(代) / FAX075(341)7753

創業1400有余年の寺社建築技術

剛 金剛組

https://www.kongogumi.co.jp/

フリーダイヤル ☎ 0120-054-731

私たちのちかい

- 一、自分の殻に閉じこもることなく 穏やかな顔と優しい言葉を大切にします 微笑み語りかける仏さまのように
一、むさぼり、いかり、おろかさにならせず しなやかな心と振る舞いを心がけます 心安らかな仏さまのように
一、自分だけを大事にすることなく 人と喜びや悲しみを分かち合います 慈悲に満ちみちた仏さまのように
一、生かされていることに気づき 日々を精一杯つとめます 人びとの救いに尽くす仏さまのように



頑なに融けようとしなかった雪のかたまりが陽ざしを浴びて姿を消していく。春の訪れも遠くない。古き友6人と久しぶりに食事会を持った。きっかけはそのうちの1人との電話。年齢をあらためて聞きあひ、月日の速さに驚かされた。互いの顔を見ながら話をしていると、何十年前に共に学んでいたことが、まるで昨日のこのようによみがえってくる。それぞれが違う道を歩みながら、今もともにこの娑婆世界にいる。こうして会えている不思議さやしみめながら、貴重な時間を過ごした。人間は人との出会い、交わりによって成長していくもので、年齢に関係なく教えられることも多い。互いに刺激を受けながら、1人のことはあきらめず考えさせられた。「学生時代、もう少し勉強しておけばよかった」。よく聞くことばだ。人間離れした過去を振り返り、「ああしとけばよかった」ということはある。仮に、過ぎた時間をやり直すことができたとして、充実した後悔のない時間を過ごせるかという、そうはいかない。前と同じことを繰り返してしまうように思う。だから、いつまでたっても後悔の念はとどまることはないのだろう。その思いを「今を大切に生きよう」とすることに転換していければと思う。切り替えである。「未来をあてにするな、過去を振りかえることなかれ。そして、あるのは今だ」。大事にしたいのは「今」である。親鸞聖人は『教行信証』冒頭で「いまま運ぶことを得たり」と「今」を強調されている。

福岡支局 〒812-0002 福岡市博多区空港前 3-9-16 善教寺内 電話 092(621)5163/FAX092(621)9400 購読料 1部120円(年間4,080円) 定期休刊 7月10日、12月10日 浄土真宗本願寺派 代表電話 宗務所 075(371)5181 / 大谷本願寺 075(531)4171

宗派公式Webサイト https://www.hongwanji.or.jp 本願寺ホームページ https://www.hongwanji.kyoto

「自分の問題、として話し合おう」

「自分の問題、として話し合おう」木戸さんは「核兵器が人類を守るために余生を捧げなくてはならない。私が生きているのは、核兵器をなくして人類を守ることに強く語った。」

情報集 終戦80年「つなぐ」

戦争体験者がますます少なくなり、記憶の継承は極めて困難な時代となりました。非戦平和への強い思いで、今号から「終戦80年〜つなぐ」と題し、連載を始めました(不定期)。今回は、読者からの体験投稿の一部を掲載する予定です。本紙では、戦争体験をはじめ、戦中・戦後の暮らし、現在の非戦平和への取り組みなど、幅広く情報を募っています。ご自身の体験談に限らず、ご家族や身近な方々につまむ話題でもかまいません。本願寺新報まで情報をお寄せください。宛て先は7面に掲載する本願寺新報「読者のひろば」をご参照ください。

最新刊 帰京後の親鸞 明日にともしびを... 八十四歳の親鸞 西方指南抄... 今井雅晴(親鸞大僧正の法孫) 84歳の親鸞聖人が4カ月の月日をかけて、師・法然聖人の法語や書状を集めた『西方指南抄』の書きを取り組んだのはなぜか。本書の内容を丹念に見つづつ、その理由を探る。 B6判・並製・112頁 1100円

本願寺御香調進所 ほのかな香りを創って400余年 加羅・沈香・線香 匂い袋・虫よけ香 香老舗 董玉堂 千600-8349 京都市下京区堀川通西本願寺前 TEL (075)371-0162 FAX (075)343-1459

浄土真宗本願寺派 傷害・医療保険 あんのん医療保険 団体割引 30% 【加入対象者】浄土真宗本願寺派の住職・僧侶・寺族・門徒およびその家族 病室やケガによる入院や手術等を幅広く補償。(天災によるケガも対象) ◆1日5,000円プランより ◆入院1日目より補償 ★新規加入は満79歳まで、継続加入は満89歳まで拡大 介護・がんのリスクにも対応!! 介護特約 要介護2以上の認定、または保険会社所定の要介護状態が90日を超え継続した場合に、一時金で100~300万円を補償 がん特約 がん診断一時金 がん通院治療費用 にかかる特約もセット可能

大乗 DAIJO 本日発売! 3月号 毎月1日発行/85判/80ページ 年間購読料 4,500円(税・送料込) 1冊 375円(税・送料込) ご門主法話(御正忌報恩講) 門徒推進員の機関誌 「門徒推進員だより」No.66が合冊! ●DAIJO法話...中川 大城 ●御文章をいただく...満井 秀城 ●みりのエッセー...藤澤 信照 ●大乗 ほうわ・HOWA・法話...佐藤 知水